

◀ 医学部卒業

2014年
福島県立医科大学医学部 卒業

◀ 卒後1年目

太田西ノ内病院
臨床研修

◀ 卒後3年目

福島県立医科大学
産科・婦人科学講座 入局
太田西ノ内病院 産婦人科

◀ 卒後4年目

福島県立医科大学
産科・婦人科学講座
南相馬市立総合病院 産婦人科

大学病院では婦人科をメインに学びました。南相馬市立総合病院では、上級医の先生1名と、2名体制で診療にあたっています。お産の件数は年間200件強です。

太田西ノ内病院では、リスクがあまり高くない患者さんに自家麻酔をかけることも多かったんです。

小元先生はなぜ産婦人科を選ばれたのですか？

小元（以下、小）…もともと外科系に興味があったのですが、一番のきっかけは臨床実習で産婦人科を回ったことですね。お産や帝王切開の手術に立ち会い、命が生まれる瞬間に関われることに非常に感動を覚えたんです。最終的には、臨床実習で内科、外科を含め様々な科を回ったうえで、「やはり産婦人科だな」と心を決めました。

卒業後、臨床研修はどちらの病院に行かれましたか？

小…臨床研修のうちは、忙しい市中病院で色々経験が積み重なったと思い、太田西ノ内病院という郡山市の病院を選びました。臨床研修では、どの科をどのように回ったのですか？

小…1年目はまずメジャーな科を押さえるようにと思い、総合内科、糖尿病内科、外科、麻酔科、救急科をそれぞれ3か月ずつ回りました。産婦人科は2年目の4、5月に回り、その後はその経験を踏まえて、関連する科を計画的に回ることができました。

僕は南相馬市の出身で、今勤務している南相馬市立総合病院の奨学金を受けて医学部に進学したんです。ですので、将来的にこの病院で働くことも想定に入れたらいいなと思っていました。

例えば、この病院には放射線科の常勤医がいなくて、放射線科を1か月回って基本的な読影の技術を身につけたり。また、産婦人科では自家麻酔をかけることも多いので、麻酔科のある的に回りました。合併症のある妊婦さんを診るときのために、呼吸器内科や糖尿病内科も回りました。

ただ、NICUを回れなかったのは少し心残りです。このような、地方の中規模病院では、生まれた赤ちゃんが重症だった場合、その場でなんとか命をつないで大学病院に搬送しなければなりません。

専門研修では、どのような経験を積みましたか？

小…母校の医局に入局し、すぐまた太田西ノ内病院に派遣されました。そこでは基本的に分娩は僕たちが任ざられていま

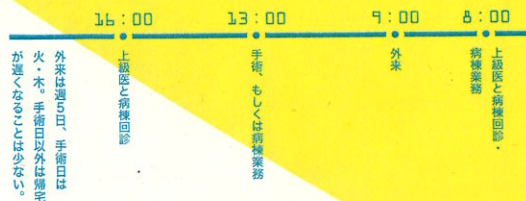
た。日中の病棟業務と入院患者さんの対応を午前中に行い、午後は手術があるときは手術をします。緊急帝王切開も、よほどリスクが高い患者さんの場合以外、入院の手続きから執刀まで全部自分たちで行いました。ハイリスクの症例も多く集まる大病院だったので、日中はかなり忙しかったです。卒後4年目には大学病院に戻って半年間勤務し、そこから現在の南相馬市立総合病院に移りました。

専門医資格取得に必要な症例は集まりそうですか？

小…福島県内にいけば症例は自然と集まってくるので、今はあまり症例数のことは気にせず、ひたすら目の前の患者さんに向き合っています。

執刀経験は臨床研修の時の緊急帝王切開から始まりました。卒後3年目の1年間だけで、帝王切開は100件以上経験しましたね。3年目の終わり頃から、子宮頸部門離切離術や、腹腔鏡を使った付着器切除術、腹式単純子宮全摘などの婦人科の手術もするようになりました。

1day



小元 敬大先生
2014年
福島県立医科大学 卒業
2018年1月現在
南相馬市立総合病院 産婦人科